

農家以外の人にも知ってほしい、スマート農業のこと

担い手の減少や高齢化に伴い、農業現場の労働力不足が深刻化するなか、ロボット、AI、IoT※といった先端技術を活用する「スマート農業」に注目が集まっています。スマート農業により、省力化による生産性の向上、ベテラン農業者がもつノウハウの可視化、緻密な栽培管理などが期待されています。農業大国の秋田県における、スマート農業の普及に向けた取り組みを紹介します。



無人ロボットトラクター(左)と有人トラクター(右)による協調作業

スマート農業で あんなこと、こんなことが できるようになるんです。

たとえばGPS※を活用した自動走行トラクターがあれば、一人で複数のトラクターを走らせたり、夜間に自動走行させたりすることが可能になります。またICT※でベテラン農業者の技術がデータ化されると、新規就農者でも高度な作業ができるようになります。さらにセンサーで光や温度、水などの情報を数値化するセンシング技術を活用すれば、農作物の生育状況を正確に把握することができます。



インターネットを介してどこからでも遠隔で操作できる草刈機



田んぼに設置した自動給水ゲート(左)と水田センサー(右)

※AI:人工知能(Artificial Intelligence) IoT:さまざまなモノがインターネットにつながる仕組み(Internet of Things)

GPS:衛星利用測位システム(Global Positioning System) ICT:情報通信技術(Information and Communication Technology)